

JAMMA ジャーナル

JAPAN AMUSEMENT MACHINE AND MARKETING ASSOCIATION 一般社団法人日本アミューズメントマシン協会
〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-8-11 飛栄九段ビル 8F

TEL : 03 (3556) 5522 FAX : 03 (3556) 5524

<http://www.jamma.or.jp>

2015年1月

電子版 No.28

アミューズメント産業の活性化に向け、 諸施策を積極的に推進



会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は当協会へ格別のご支援、ご協力を賜りましたこと改めて厚く御礼申し上げます。

2015年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べ、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

さて、昨年日本経済において大きな影響を与えた出来事として挙げられるのが、やはり4月に消費税率が5%から8%に引き上げられたことです。予想されてはいましたが、その結果としてやはり個人消費が大きく落ち込むこととなりました。現在、消費は徐々に持ち直しているもののその動きは緩慢であり、増税前のレベルにはいまだ戻っておりません。また、10月に行われた日銀の追加金融緩和以降さらに円安が進み、その恩恵を受ける産業とそうでない産業が分かれてしまっていることにより、依然不安定な経済状況が続いております。しかしながら政府が主導する「アベノミクス」の効果により、有効求

(一社) 日本アミューズメントマシン協会 里見 治 会長 年頭所感

人倍率や1人当たりの賃金は緩やかに増加しており、2015年に再度予定されていた消費税率引き上げ実施の延期、また年末に行われた衆議院議員総選挙での与党の圧勝による「アベノミクス」の継続推進など、2015年の景気は堅調に推移するのではないかと予想されており今後の動向が注目されるところであります。

このような環境下におけるアミューズメント産業の動向について、2013年度の市場規模は6,314億円となり、前年比で97.3%となっています。そのうち業務用アミューズメント機製品販売高は前年比約2.3%減となる1,750億円となりました。機器メーカーは引き続きコンテンツのダウンロード配信や、稼働に応じて売り上げを施設オペレーターと分け合うレベニューシェアモデルなど、施設オペレーターの初期投資を抑えつつ新製品の導入を促進するための施策を拡大するとともに、様々なジャンルのゲーム内にチーム対戦や協力プレイなど多人数参加の要素を盛り込

むことにより、アミューズメント施設というプレイヤーが集まる場の特性を活かそうとする取り組みなども行っています。

一方、オペレーション売上高は前年比約2.9%減となる4,564億円とわずかに減少しました。店舗数、機器の設置台数ともに減少が続く市場規模は縮小しておりますが、多くの企業で不採算店舗を閉店して経営効率を高めた結果、1店舗当たりの年間売上高や1店舗当たりの設置台数、1台当たりの年間売上高は揃って微増となっております。また海外展開を進める企業も出始めており、今後はさらにクール・ジャパン・コンテンツの一つとして、アミューズメント施設やゲームセンターそのものを海外に根付かせてゆく取り組みを行っていくことが必要だと考えています。アミューズメント産業全体でみるとやはり消費増税の影響は大きく、今後もその影響は続くと思われ、消費税の10%への引き上げが延期された今だからこそ、業界がさらなる成長をしていくために抜本的な変革を業界全体で取り組むことが必要です。

我々は、遊園施設領域、SC分野のオペレーター領域を含む、幅広いアミューズメント業態を包括する「一般社団法人 日本アミューズメントマシン協会」として、本年もアミューズメント産業の活性化を目指して、幅広く様々な取り組みを行います。

JAMMAでは、かねてから「風適法研究特別委員会」を中心として、アミューズメント産業に関わる必ずしも適正でないと思われる各種の規制に関する適正化に向けた取り組みを行っております。昨年には18歳未満のお客様の店舗への立ち入り制限に関する規定見直しを盛り込んだ「風適法改正案」が国会に上程されるまでに至りました。11月の衆議院解散により本改定案は一旦廃案となりま

したが、次回以降の国会での成立を目指し引き続き活動を行ってまいります。今後も利用者が楽しく安全にゲームセンターを利用して頂ける様、またアミューズメント業界全体の活性化を図るためにも、各種規制の適正化を訴えていく取り組みを強化してまいります。

展示会事業においては、JAMMAと一般社団法人 全日本アミューズメント施設業者協会連合会(AOU)の共同主催による展示会「ジャパンアミューズメントエキスポ(JAEPO)2015」を、本年も2月13、14日の2日間にわたり幕張メッセにて開催いたします。今回の展示会におきましては、従来のトレードショーの要素はそのままに、一般公開日での物販コーナーの新設など一般来場者の皆様にもお楽しみ頂ける取り組みを増やしていきたいと考えています。「ゲーム遊び放題!」というテーマで最新のマシンやプライズ機器を取り揃えるのはもちろん、主催者ブースで開催するイベントの拡充や、積極的なメディアへの発信を行うことにより、より多くの皆様にお楽しみ頂けるイベントとして発展させていくとともに、アミューズメント業界が一丸となって利用者の裾野拡大を図るためのメッセージを積極的に発信していきたいと考えています。

また、SC施設事業部、国際部会の活動としては、昨年11月に世界最大のエンタテインメント展示会であるIAAPAの視察と急速に多様化が進む米国アミューズメント市場を視察いたしました。参加された各会員企業におかれましては、米国の先進事例と共に業界の海外展開における実例を学ばれたことと存じます。

最後になりましたが、皆様のご発展とご健勝を心から祈念いたしまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

グローバルに活躍できる多様な企業群を支援 国内の諸課題を解決し、製造業から日本経済の再生を



平成27年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

安倍政権が発足してから2年が経過し、アベノミクスの「三本の矢」により経済の好循環が生まれ始めております。こうした動きを一過性のものに終わらせず、持続的な成長軌道につなげていくために、引き続き、成長戦略を推し進め、製造業から日本経済の再生を成し遂げていきたいと思っております。

我が国は世界に先駆けて少子高齢化が進展し生産年齢人口が減少するなど、まさに課題先進国であり、世界中の国々から日本が如何に対処するのか注目を集めています。実際に、ものづくり現場においても人手不足の顕在化や生産現場の作業負荷などの課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっております。こうした課題解決の切り札として、ロボットが注目されています。人手不足やサービス部門の生産性向上を図るためにロボットを活用するとともに、これを梃子に裾野の広い機械産業の更なる成長へとつなげていきたいと考えています。現在、安倍総理の下に、有識者からなる「ロボット革命実現会議」を設置し、日本をロボットが牽引するイノベーションの拠点とするための戦略づくりを進めています。ロボット未活用分野への導入支援、現場ニーズに即応した市場化技術開発、次世代のロボット技術開発を進めながら、

経済産業省 製造産業局 産業機械課
佐脇 紀代志 課長

年頭所感

並行して規制緩和、必要な安全規制の構築、標準化の推進など必要な環境整備を実施してまいります。

また、中長期的に国内市場の縮小が見込まれる中、我が国経済の牽引役となり、グローバルに活躍できる多様な企業群を継続的に生み出していくことが重要です。経済産業省としても引き続き、地域経済を支えながら、国際的にも高いシェアを保持するグローバルニッチトップ (GNT) 企業を支援してまいります。

併せて、我が国企業の海外展開を支援し、最先端のインフラシステム輸出を後押しし成長著しい新興国市場の獲得に向け、日本の優れた技術を世界に提供してまいります。産業機械課としても、世界最高水準の発電効率を誇る日本製石炭火力発電の輸出を推進してまいります。

さらに、法人税を成長志向型の構造に変革していく必要があります。実質的な法人税負担でみると日本企業の税負担は約30%と諸外国の企業より10%以上高い税負担となっております。数年で法人税を20%台まで下げるなど、高付加価値拠点・競争力確保に取り組んでまいります。

産業機械課は、これからも皆さんの生の声



JAMMA 主催のメンテナンス講座を開催します。

「ジャパン アミューズメント エキスポ 2015」では、前回も来場者に好評だったメンテナンス講座を開催します。

日頃の店舗でのメンテナンスのコツについて

てメーカーの担当者が直接解説する大変貴重な機会ですので、奮って語受講下さい。

受講申込は、専用の申込書により、メールまたはFAXでお願いします。

ジャパン アミューズメント エキスポ (JAPEO) 2015
メンテナンス講座

日時： 2月13日 (金)
会場： 幕張メッセ国際会議場1F 101号室
主催： 一般社団法人日本アミューズメントマシン協会 (JAMMA)
定員： 各講座とも30名
受講料： 各講座とも@2,000円 (消費税込)

講座A	①ヒーローバンクアーケード / ②え〜でるすなば
10:30~ 11:30	①ヒーローバンクアーケード ・ネットワーク障害について ・よくある問い合わせについて ②え〜でるすなば ・防犯カメラ機能について 解説： 株式会社セガ・ロジスティクスサービス 保守サービス部
講座B	「NESYS」について
13:00~ 14:00	○NESYSの概要 ○トラブル対応とメンテナンス 解説： 株式会社タイトー TA事業部TECH部
講座C	太鼓の達人のメンテナンスについて
14:30~ 15:30	○設置に関してのお願い ○本機の構成について ○エラーと対処 ○定期メンテナンス 解説： 株式会社バンダイナムコゲームス AMサービス部

<申込み締切日> 平成 27 年 2 月 6 日 (金) 必着

<お申し込み先>一般社団法人 日本アミューズメントマシン協会 (JAMMA) 担当 浅見
TEL : 03-3556-5522 FAX : 03-3556-5524 E-mail : seminar@jamma.or.jp

※ 申込書到着後、折り返し受講券をお送りします。

※ 受講料は、当日、セミナー会場前の受付にて、開始 5 分前までに現金でお支払い下さい。

※ 申込み締切日前であっても、定員になり次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込み下さい。

※ お送り頂いた個人情報は、本セミナー以外には一切使用いたしません。

遊園施設事業部 活動状況

平成 26 年度遊戯施設安全管理講習会を開催しました。

JAMMA 遊園施設事業部（中川実事業部長）は 14 年 12 月 1 日、東京都新宿区の家光会館 7 階コンベンションホールにおいて、平成 26 年度遊戯施設安全管理講習会が開催された。

この講習会は、高度化や大型化が進んでいる遊戯施設の安全確保のために、遊戯施設を維持・管理する関係者、運行管理者や運転者、技術者等を対象として毎年実施されている。全国から 123 名が参加した。

今回の講習会は、国土交通省と東京都。協



した状況下だからこそ、安全確保になお一層の注意が必要なことを語った。

「遊戯施設の安全確保に当たりましては、ハードについての維持管理のみならず、運行管理も、アルバイト等の方も含めて、運行に携わる全ての皆様が適切な対応を行うよう、日頃から留意していくことが重要であることは言うまでもありません。しかし残念ながら、最近も事故が少なくなっておりません」

木村課長はそう指摘して、国土交通省が資料を公表した最近の事故の実例を挙げた後、「このように一旦事故が発生しますと、その遊戯施設ばかりでなく、遊園地に対する信頼を損なうことにもなりかねません。本日出席されている皆様のみならず、関係者、運行管理の方も含めて、一人ひとりに安全確保の意識を十分に持っていただき、マニュアル等も含めて、安全確保の方策を改めて練っていただきたいと思います」と要請しました。

続いて、最近建築基準法の一部が改正されたことに触れ、定期検査・調査報告制度が強化されたことを明らかにした。また、事故な



大阪府住宅まちづくり部建築指導室
建築安全課の草宮利一課長補佐

賛は、一般財団法人日本建築設備・昇降機センター、東日本遊園地協会、西日本遊園地協会、日本ウォータースライド安全協会、一般社団法人東京都昇降機安全協議会に後援いただきました。

講習会は 10：00、東京都都市整備局市街地建築部建築企画課の木村宣代課長の開講挨拶から始まりました。

木村課長は、まず最近の遊戯施設のスピード化、大規模化、複雑化などを指摘し、そう

遊園施設事業部 活動状況



JAMMA 遊園施設事業技術委員会の藤井宏治副委員長

どが起きた場合の調査体制も強化され、国が自ら調査を行えること、製造者に対しても調査権限を持つことが報告されました。

遊戯施設の基礎知識

遊戯施設の歴史や構造、仕組みを解説

木村課長の挨拶の後には、各テーマにわたる具体的な講義が開始されました。

最初は 10:30 から、「遊戯施設の基礎知識」と題する講義が、日本アミューズメントマシン協会・技術委員会の山野幹彦委員によって行われました。

11年12月に全日本遊園施設協会（現 JAMMA 遊園施設事業部）技術委員会が作成した冊子「遊戯施設の基礎知識」を教材資料として、遊戯施設の歴史や種類が解説された。

遊戯施設の種類については、建築基準法施行令第138条の「工作物の指定」により、高架の遊戯施設と回転運動をする遊戯施設の2つに大別されていることを説明。その上で、建設省告示で細かく分類されている、ウォーターシュート、コースター、メリーゴーラウンド、観覧車、オクトパス、飛行塔などについて、構造や仕組みの概略が説明されました。

遊戯施設の維持保全計画と運行管理
施設の安全確保における各担当者の役割を説明

1時間の昼食休憩をとった後、13:00から2つ目の講義「遊戯施設の維持保全計画と運行管理」が始まりました。講師は、一般財団法人日本建築設備・昇降機センター認定評価部の金田宏副部長です。

講義は、全日本遊園施設協会（当時）の技術委員会によって作成された「遊戯施設セーフティダイジェスト」を教材資料として行われた。このセーフティダイジェストは、遊戯施設で不測の事故を起こさぬよう、日常の維持保全及び運行の管理について必要な事項を述べたものです。

講義では、運行管理者、運転者、補助者、維持保全部管理者、維持保全技術者の選任の条件や役割が話された。それぞれの職掌に従い、日常的な巡回や安全管理、定期検査のポイントなどについても細かな留意点が説明されました。

また、安全を確保するために、遊戯施設の所有者等が行わなければならないこと、「運



(一社) 日本建築設備・昇降機センターの中里眞朗氏

行管理規定の作成」「利用の制限に関する注意事項の掲示」「万一の事故に備える救急体

遊園施設事業部 活動状況



IMG_2547.JPG

制の整備」などについても講義がなされた。

さらに、事故が発生した場合の特定行政庁への報告や、遊戯施設を運行するために必要な教育及び訓練についても説明がありました。

技術概論 (1) 締結ボルト・ナット安全な使用方法

ボルトの締め付け方法や安全な施工・管理を教示

技術概論として、部品等の製造企業の専門家による講義が行われました。

最初は、ユニタイト(株)営業部の霜野弘典課長による「締結ボルト・ナット安全な使用方法」。

講義は、ボルトの種類の説明から始まり、六角ボルト等6種類のボルトをプロジェクター画面で解説した。各部位の名称や全ねじ(首下が全部ねじのもの)と半ねじ、強度区分による使用用途、ハイテンションボルト(HTB)とトルシア型ボルト(TC)などについても言及し、かなり専門的な内容であった。

次に、ボルトとナットが母材を締め付ける力「軸力」と、ねじを締める力「トルク」との関係が説明されました。

ナットについても、「ナットの強度とボルトとの組み合わせには規定・規格があること



IMG_2553.JPG

を理解していただきたい。はまれれば良いというものではない。強度にアンマッチがあると、ねじ穴がちぎれたり、強度が弱くなることもあるので、十分気をつけてほしい」と注意が促された。戻り止め機能付きナットの説明や、ダブルナットの締め方、緩みの確認なども講義されました。

接合方法には、摩擦接合と支圧接合(せん断接合)の2つの方法があることが説明された後、ハイテンションボルトの締め付け方法が教示された。①一次締め②マーキング③本締め④マーキング確認の手順で行う。

施工時・施工後のトラブルについての説明で講義は終わり、最後に霜野氏は、「安全な施工・管理のために覚えて帰ってほしいこと」として、以下の3つの事柄を挙げた。

- ①締め付け手順を守る。
- ②正しい手順で作業できない状況のときは、無理に作業を行わず、設計者もしくはボルトメーカーに相談する。
- ③ボルト・ナットは水濡れ厳禁。雨天の施工は避ける。

技術概論(2)潤滑油(グリース)についてグリースの組成から選定、使用上の注意を解説

遊園施設事業部 活動状況

続けて、(株)和光ケミカル技術部ケミカル開発グループのグリース担当、鶴絵梨佐氏による「潤滑油（グリース）について」の講義が行われた。

鶴氏は和光ケミカル技術部が作成した資料「グリースの基礎知識」を教材として講義を行いました。

グリースは、基油、増ちょう剤、添加剤から構成されているが、まず、3つの要素がどのような役割を果たしているかが説明された。

基油に関しては、鉱油と代表的な合成油について、使用温度範囲や潤滑性、耐熱性、低温性、耐樹脂性など、それぞれの特徴が示された。

増ちょう剤は、潤滑油をグリース状にする重要な成分である。増ちょう剤や各種添加剤についても代表的なものを挙げて説明されました。

続いて、グリースのちょう度（硬さ）についての解説や、グリースの一般的選定基準、補填についての説明があり、グリース選定の考慮事項として、ベアリング（軸受け）、ギヤー（歯車）、ピン・ブッシュ、摺動面において考

慮する条件やグリースの傾向が解説された。

グリース使用上の注意も示された。異物の混入を防止すること、加熱をしないこと、空気（気泡）を混入させないことなどが挙げられたが、特に、異なるグリースの混合は性能を低下させる危険が多く、極力避けるべきだとのこと。

グリースの使用限界についても言及があった。グリースの劣化は、摩擦面に接している部分が劣化し、全体が劣化するわけではないため、使用限界の判断は困難なことが多い。機械メーカー各社は補給の有無に関わらず、半年から1年後との交換を推奨している。

鶴氏は、グリースの選定にはグリース潤滑の4原則を考慮すべきとアドバイスした。以下の項目である。

- ①適油（適したものを使用する）
- ②適量（多ければよいと思うのは間違い）
- ③適時（条件にマッチしたグリースアップが必要）
- ④適法（どんな方法で給脂するか、それに合わせて選定する）

SC 施設事業部 活動状況

第9回事業部会を開催、木更津のSCを視察しました

JAMMAのSC施設事業部（梶修明事業部長）は14年12月18日、19日の両日、第9回SC事業部会を開催、42名が参加されました。

今回は千葉県木更津市の「イオンモール木更津」のアミューズメント施設2施設と、三井 木更津アウトレットモールの視察を行いました。

参加者は第1の視察先となるイオンモール木更津で、山下啓次ゼネラルマネージャー



SCの説明を受ける参加者

SC 施設事業部 活動状況



ロケーション視察の様相



SC 事業部会の様相

から施設の概要説明を受けました。

イオンモール木更津は敷地面積28.3万㎡、延べ床面積9.0万㎡の規模で30～40代をメインターゲットにしたモール。他のモールと異なる部分としては、アクティブレジャーゾーンとしてフットサルコートが3面、700席のバーベキューカフェ、全長約410mの本格的なレーシングカートが運転できる木更津サーキットが常設されていることなどが挙げられる。また、ライブなどを行える野外ステージも設けられています。

説明終了後、参加者は施設内にある「ソユースゲームフィールド」（株ソユース運営）の視察を行った。同施設は最近話題のチームラボによる「お絵かき水族館」が常設されているほか、イオンの電子マネー「ウォン」が使用できる端末が取り付けられたゲーム機を設置しているのが特長です。

参加者は、ソユースのスタッフから同店の状況及びウォン端末についての説明を受けた。SC施設事業部でも、電子マネー端末については度々説明を受けたり、議題に上がったりしていることもあり、それぞれが導入コスト店舗側の使い勝手、来店者の電子マネー利用状況などについて熱心に質問する姿が印象的

でした。

次いで参加者はもう一つのAM施設「モーリーファンタジー 木更津店」を視察した。同施設は220坪の規模で施設内に時間制施設「わいわいぱーく」を併設している。また、同店舗では一部のプライズマシンにソユースの店舗と同様にウォンが使用できる端末を設置している。スタッフから同店の状況等の説明を受けた後、参加者は売上の推移や店舗スタッフの内訳などについて質問していました。

続いて別フロアにあるソユーススケートフィールド（株ソユース運営）も視察。同施設は常設型のスケート場で、特殊な樹脂の専用パネルを使用することで氷を使うことなくスケートが楽しめる。同施設も小中学生を中心に人気を博しているという。

次いで、今夏増床を実施した三井アウトレットパーク木更津の視察を行った。

参加者は宿泊先の龍宮城ホテル三日月の移動中に平成26年度の活動計画が報告された。宿泊先では、懇親会に先立ち会合が行われた。

1つ目の議題は、JAMMAに内閣消費者委員会の担当者が訪問したことを受けた意見交換が行われた委員会担当者の訪問目的は

SC 施設事業部 活動状況

SC 施設で発生しているエア遊具の事故に関する協会の対応状況を確認するものだったという。

エア遊具は JAMMA 会員の製品ではないことから、エア遊具の安全な運営について注意喚起するため、JAMMA ではエア遊具の安全を啓蒙している（一社）日本エア遊具安全普及協会について紹介した。

また弊社でも、エア遊具の事故事例や工日本エア遊具安全普及協会が行っている講習会などの説明を行いました。

次いで、今回の視察で使用されていた電子マネー端末の開発を行っている加賀電子(株)の奥山泰介氏から、同社の電子マネー端末の状況について説明が行われました。

現在は(株)ソユー、(株)タイトー、(株)イオンファンタジーで同社の電子マネー端末が設置されており、実証実験が行われています。それぞれの実験結果を踏まえ、同社では本年 7 月には製品版の開発を本年秋には無線方式の端

末を開発していきたいと、現状について説明しました。

また、これまで行われた実証実験の結果については、日本アミューズメント産業協会（JAIA）を中心に組織される IT ネットワーク特別委員会で報告会が開催される予定であることが報告されました。

次いで平成 27 年度の事業計画について審議され、26 年度は実施された海外視察については 27 年度は実施を見送り、国内視察のみにとどめることが了承されました。

また SC 事業部会員を対象にしたセミナーの実施についても検討され今回の議題にもなったエア遊具の安全に関するセミナー実施を検討することが了承されました。

懇親会では、梶事業部長の挨拶の後、事業部会初参加者の自己紹介が行われ、イオンファンタジーの藤原徳也取締役が乾杯の音頭を取り会員相互の懇親を深めました。

翌 19 日は長生郡の長南カントリークラブで情報交換会が行われ、18 名が参加しました。

SC 施設事業部主催の メンテナンスセミナーを開催します

SC 事業部会では、JAEP0 初日の 2 月 13 日、第 10 回 SC 施設事業部会開催後の 14：30～16：00、幕張メッセ国際会議場で SC 事業部会員企業の社員及びスタッフを対象に、メンテナンスセミナーを開催します。

今回は(株)セガ・ロジスティクスサービスから講師を招き、アミューズメントマシンの日常のメンテナンスとその重要性についてをテーマにわかりやすく説明を行う予定です。

なお詳細は次の通りです。

【SC 施設事業部会 「メンテナンスセミ

ナー」実施概要】

日時：平成 27 年 2 月 13 日（金）

14：30～16：00

場所：幕張メッセ国際会議場 3F 中会議室 304

対象：JAMMA SC 施設事業部会員企業の社員およびスタッフ

定員：60 名（先着順、定員で申込締切）

講師：(株)セガ・ロジスティクスサービス

内容：アミューズメントマシンの日常のメンテナンスとその重要性について

受講料：無料

協会活動 第14回理事会

日時：14年12月3日16:00～17:30

場所：JAMMA大会議室

出席：理事11名、監事2名、経産省担当官3名

◎議題

第1号議案 27年度重点事業計画に関する件
標記の件について、事前に会員企業に対して実施したアンケートの結果を踏まえた上で作成された平成27年度重点事業計画（案）が、事務局から説明され、審議の結果異議なく承認されました。

なお、27年度重点事業計画（案）は次の通りです。※【 】は担当部会・委員会、各事業の前にある○は公益性の高い事業

平成27年度重点事業計画（案）

1. アミューズメントマシン（AM）産業に関する調査研究事業

○(1) 電子マネー〈新たな料金決済〉システムの構築に関する調査研究【ITネットワーク特別委員会/JAIA技術委員会】

○(2) 景品提供営業のあり方に関する調査研究【AMプライズ部会】

○(3) AMのリサイクルシステム構築に関する調査研究【3R部会】

・(4) 展示会のあり方に関する調査研究【展示会事業部会】

○(5) 知的財産確立に関する調査研究〈知的財産権の確立および保全、7号転用機の許諾管理に関する調査研究〉【調査情報部会-知的財産委員会】

・(6) 規制の適正化に向けた調査研究（JAIA支援事業）

○(7) AMの健全化・啓蒙に関する調査研究〈倫理基準の運用、AM適合機登録制度の検討〉【倫理部会】

・(8) AMの規制動向に関する調査研究【倫理部会】

・(9) 遊園施設に関する調査研究【遊園企画部会/遊園技術・安全部会-技術委員会】

2. AM産業に関する技術開発・標準化事業
○(1) 関係法令等の検討作業への協力【AM技術部会】

○(2) JIS規格の策定事業【AM技術部会】

3. AM産業に関する情報の収集・提供及び展示会・講習会等の事業

○(1) アミューズメント文化の振興〈業界プロモーション〉【調査情報部会-広報委員会】

・(2) AM産業に関する情報の収集及び提供【調査情報部会】

○(3) アミューズメント文化及び業界に係る情報の発信〈JAMMAジャーナル等による情報発信、HPコンテンツ拡充〉【調査情報部会-広報委員会】

・(4) AOUとの展示会共催〈JAPEO開催〉【展示会事業部会】

○(5) 関連法令、協会自主基準等に関する講習会の実施【調査情報部会】

○(6) アミューズメント文化の海外への情報提供等〈海外市場の拡大に向けた取組み〉【国際部会】

○(7) 海外市場視察および報告事業【国際部会/SC部会】

・(8) 遊園施設に関する安全対策の調査研究と安全講習会【遊園技術・安全部会-技術委員会】

・(9) 遊園施設に関する情報収集及び提供【遊園企画部会】

・(10) SC遊園施設に関する情報収集及び提供【施設営業部会/海外SC戦略部会】

4. AM産業に関する内外関係機関との交流

協会活動 第14回理事会

事業

- ・(1) 国内関係団体との交流【正副会長会議】
 - ・(2) 海外の業界団体との交流【国際部会】
 - (3) 海外における知的財産権保護の活動【国際部会・調査情報部会】
 - ・(4) 遊園施設に関する国内・海外関係団体との交流【遊園企画部会／遊園技術・安全部会-技術委員会】
5. AM 産業に関する登録事業
- ・(1)AM の表示マーク制度【倫理部会-倫理審査委員会】
 - ・(2) 遊園施設に関する定期検査報告【遊園技術・安全部会-技術委員会】
 - ・(3)AM プライズ表示マーク制度【AM プライズ部会】
 - ・(4) 設備投資減税に伴う証明書発行事業【遊園技術・安全部会】
- 〔全 28 事業〕

第 2 号議案 定款の変更に関する件

標記の件については、事務局から現行定款では、会長不在の際の総会の運営、議事録署名人の選任や役員改選時の理事会招集など、総会・理事会等の運営について課題が多いため、実情に即し定款を変更する案が説明され審議の結果、承認され総会の議案として上程されることとなりました。

第 3 号議案 規定の改正に関する件

標記の件について、事務局から、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）の一部改正に伴い、JAMMA の「定年退職者の再雇用制度に関する規程」を一部改正する案が説明され審議の結果、承認

されました。

なお今回の改正は、継続雇用の対象者を限定することができた旧法に対し、希望者全員を継続雇用制度の対象とすることとなったことに合わせた改正となります。

第 4 号議案 その他の件

◎報告事項

1. 役員退任の報告
2. 会員区分及び会費の見直しについて（特別諮問委員会）
3. 各部会の活動報告
 - (1) 遊園施設事業部会
 - (2) SC 施設事業部会
4. ジャパン アミューズメント エキスポ 2015 について
5. 賀詞交歓会について
6. 年間スケジュールについて
7. その他

報告事項の中で役員退任については、(株)タイトーの小島理一理事から、同社退職に伴い理事退任の申し出があり、了承された。また、会員区分及び会費の見直しについては、特別諮問委員会での審議の状況について説明が行われた。

各部会の報告については、遊園施設事業部会においては、12月1日に開催された平成26年度遊園施設安全管理講習会の結果について、SC 施設事業部会からは11月18日から24日まで実施されたIAAPA・米国市場視察について報告が行われた。